

日本セラミック株式会社
NIPPON CERAMIC CO., LTD.

2020年12月期第2四半期

連結決算概要

2020年8月

日本セラミック株式会社(6929)

 Nicera

この資料に記載されている、当社又は当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の全ての事実は、当社が現在入手している情報に基づく、予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているにすぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、それらの性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これがその原因となりうるリスクや要因は多数あります。

すなわち、当社グループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス・ビジネス市場は変動性が激しく、加えて、当社グループは国内のみならず海外においてもビジネスを行っているため、技術、需要、価格、競争状況、各地の経済環境の変化、為替レートの変動、その他の多くの要因が業績に影響を与えることがあります（尚、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

資料内の数値は百万円未満を切り捨て表示し、百分率は元データから算出しております。

2020年12月期 第2四半期

- ◆ 世界経済減速の影響を受け輸出や設備投資が低迷していることに加え、各国での外出・移動制限などの感染拡大防止措置継続、国内においても渡航制限や、各自治体による外出自粛要請や休業要請等により、経済活動が大きく制限されている中での販売活動となりました。
- ◆ フィリピン工場の稼働停止及び稼働率低下による生産及び仕入先からの部材調達・納品の遅延、顧客メーカーの減産や自動車販売台数の低迷などにより、自動車向けセンサの販売が減速していることから、売上は減少し、当第2四半期連結累計期間の当社グループの売上高は7,560百万円（前年同四半期比19.9%減少）となりました。

足元の状況

- ◆ 中国における生産活動は3月末に、フィリピン工場も6月中旬には従来の生産体制にそれぞれ回復しております。ただ、新型コロナウイルスの収束の兆しも見えない状況であり、また、自然災害等の予期せぬ事態に対応できる体制作りが必要と考えており、生産・物流に対する影響を最小化するため国内生産の増強に取り組んでおります。

2020年12月期の業績予想及び配当予想について

- ◆ 連結業績予想につきましては、2020年5月8日に公表いたしました業績予想に変更はありません。なお、実際の業績は今後の様々な要因によって大きく差異が発生する可能性があります。今後、業績予想に関して修正の必要が生じた場合には、速やかに開示する予定であります。

当社グループでは、お客様及び従業員等の健康と安全を最優先として、それぞれの拠点における政府・自治体が発する基本方針を基に新型コロナウイルス感染症防止に取り組んでおります。新型コロナウイルスの収束の兆しは未だ見えない状況であり、また、自然災害等予期せぬ事態に対応できる体制作りが必要と考えており、生産・物流に対する影響を最小化するための対策にも取り組んでおります。

具体策

- ① 社内規定「新型コロナウイルス対応フロー」の新設
- ② 販売・間接部門等において、テレワークなどのニューノーマル（新常態）における新たな働き方の導入
- ③ 主要製品をお客様に安定供給、事業活動への影響を最小限にするため、リスク分散可能な生産体制の構築
 - 国内生産の増強
 - 事業部間の接触禁止（出入口を完全分離）
- ④ 在庫の適正化（お客様の必要な製品をタイムリーにお届けすることを最優先）

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響が長期化した場合、出荷数量減少による売上高や利益の減少により、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。また、当社グループにおいて、それぞれの拠点における政府の方針を受け、「外出制限措置」等により生産活動を一時停止する可能性があります。

今後、業績に重要な影響を与えることが判明した場合には、速やかにお知らせいたします。

生産活動は回復傾向にあるが、海外工場の稼働停止や部材納期の遅延などマイナス要因が多く売上に影響

コロナ禍で国内とアジア向けは売上戻りつつあったが、欧州向け販売はお客様の出荷延期の要請を受けるなど減収

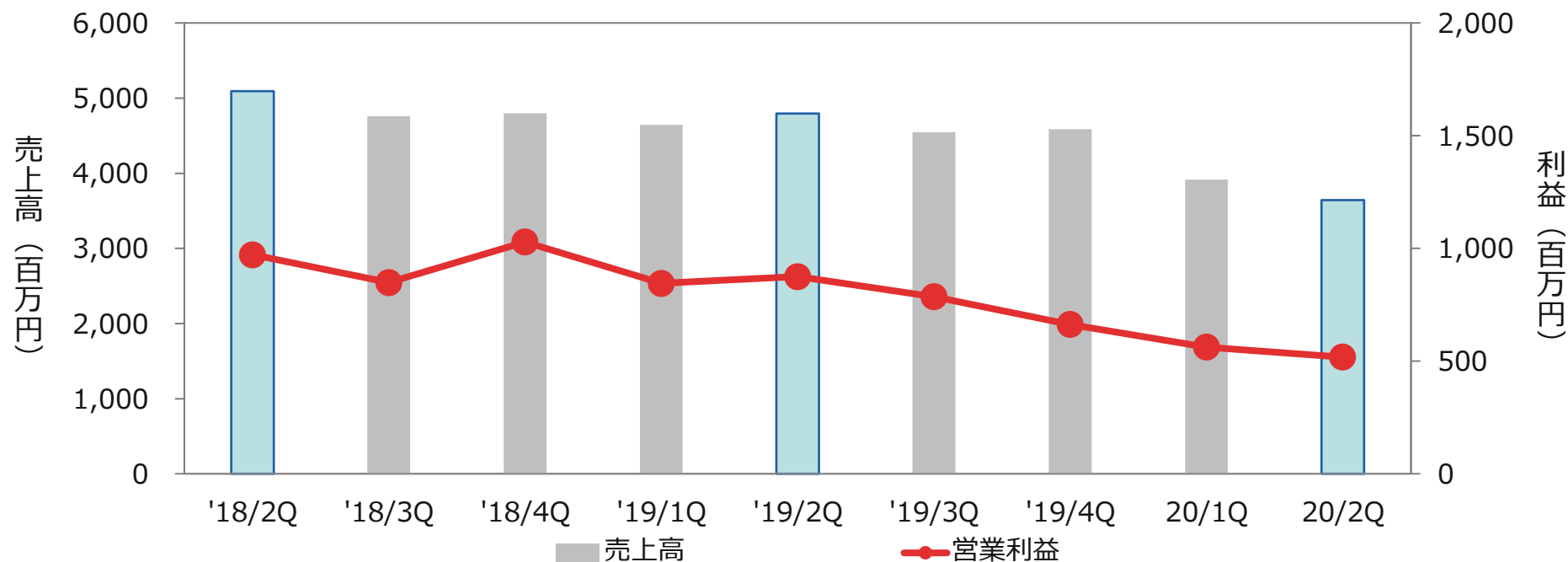
海外のリスク回避として国内生産へのライン構築中

2020年12月期 第2四半期連結業績



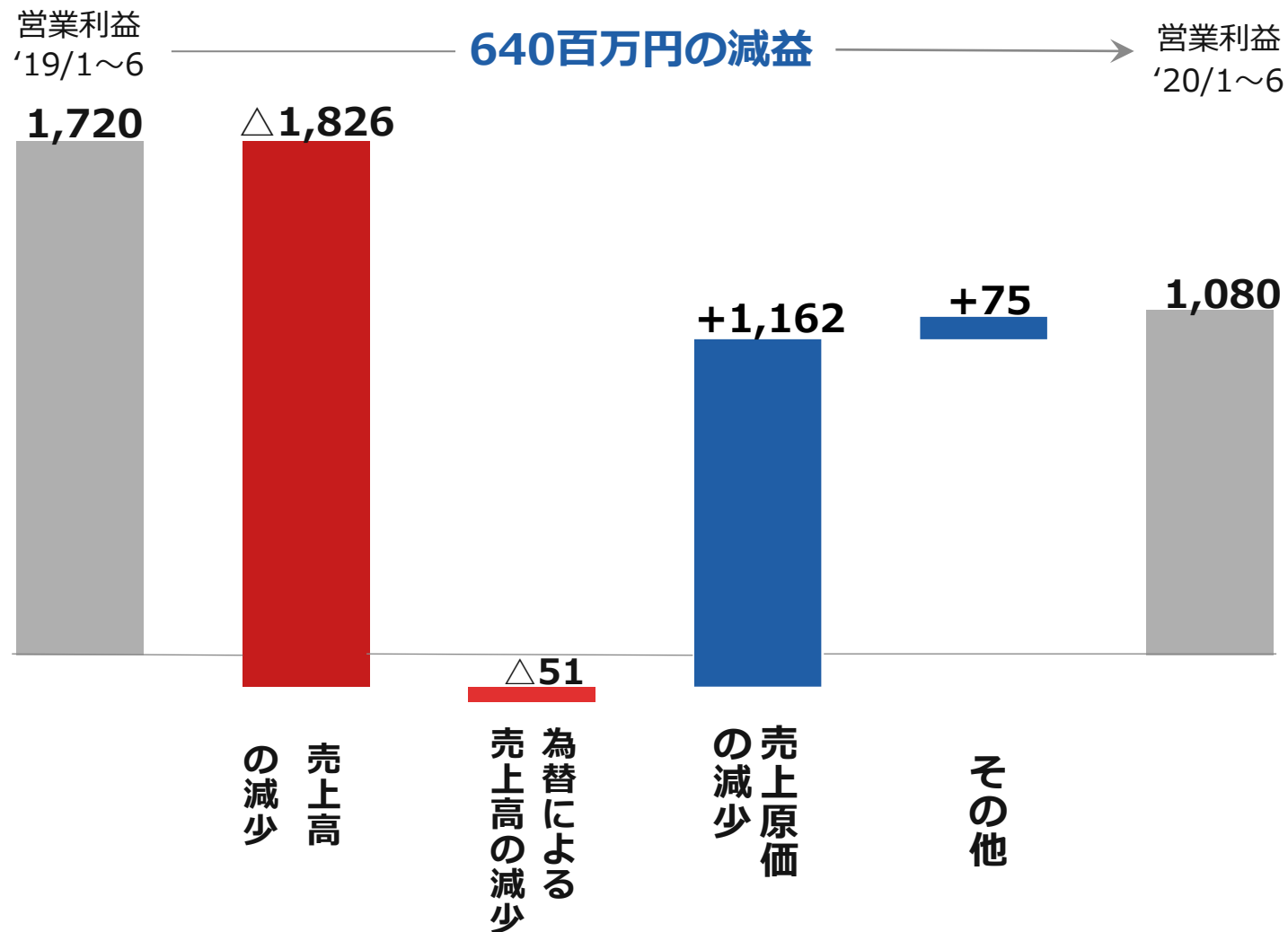
単位：百万円		'19/1~6		'20/1~6		増減	
		実績	利益率	実績	利益率	額	率
売上高		9,438	-	7,560	-	△1,877	△19.9%
売上総利益		2,787	29.5%	2,072	27.4%	△715	△25.7%
営業利益		1,720	18.2%	1,080	14.3%	△639	△37.2%
経常利益		1,875	19.9%	1,236	16.4%	△639	△34.1%
親会社株主に 帰属する 当期純利益		1,352	14.3%	893	11.8%	△459	△34.0%
USD レート	平均	110.78円		108.55		2.23 円の円高	
	当期末	107.79円		107.74		0.05 円の円高	

連結四半期 売上高・利益推移



単位：百万円	'18/2Q	'18/3Q	'18/4Q	'19/1Q	'19/2Q	'19/3Q	'19/4Q	'20/1Q	'20/2Q
売上高	5,092	4,759	4,798	4,644	4,794	4,549	4,588	3,915	3,645
営業利益	972	849	1,029	845	875	786	663	562	518
経常利益	1,358	1,137	1,029	912	963	932	763	638	598
親会社株主に 帰属する 当期純利益	989	817	681	651	701	658	712	603	290
USDレート	110.54	113.57	111.00	110.99	107.79	107.92	109.56	108.83	107.74

※ 為替レートは四半期末を示しています



■ 生産工場 稼働停止の影響を受け売上減少

単位：百万円	'19/1~6	'20/1~6	増減率	地域別割合
日本	5,451	4,361	△20.0%	57.7%
極東、 アジア	3,074	2,505	△18.5%	33.1%
欧州	743	597	△19.6%	7.9%
北南米	168	95	△43.5%	1.2%
合計	9,438	7,560	△19.9%	100.0%

連結キャッシュフロー

単位：百万円	'19/1~6	'20/1~6	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,298	1,954	△344
投資活動によるキャッシュ・フロー	△401	△1,216	△814
フリー・キャッシュ・フロー	1,336	1,668	332
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,600	△3,794	△1,193
現金及び現金同等物の期首残高	22,279	22,617	338
現金及び現金同等物の期末残高	21,487	19,514	△1,973

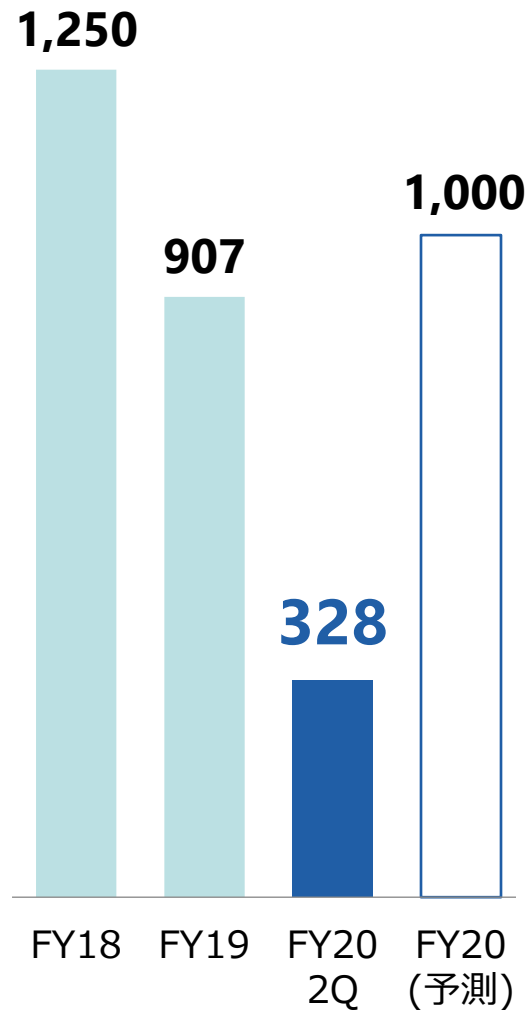
連結貸借対照表

単位：百万円	2019年12月	2020年6月	前年度末差
流動資産	44,094	40,974	△3,119
（内、棚卸資産	4,496	4,693	196
有形固定資産	9,792	9,604	△187
無形固定資産	403	388	△15
投資その他の資産	1,344	1,070	△273
資産の部合計	55,635	52,038	△3,596
流動負債	3,593	3,490	△103
固定負債	272	293	20
負債の部合計	3,865	3,783	△82
株主資本	48,959	46,144	△2,814
その他	2,810	2,111	△699
純資産の部合計	51,769	48,255	△3,513
負債及び純資産合計	55,635	52,038	△3,596

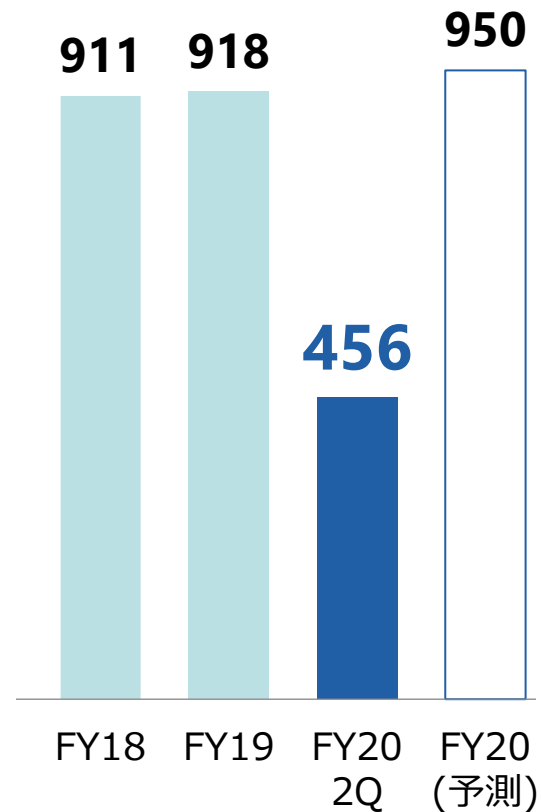
累計設備投資費、減価償却費及び研究開発費

(百万円)

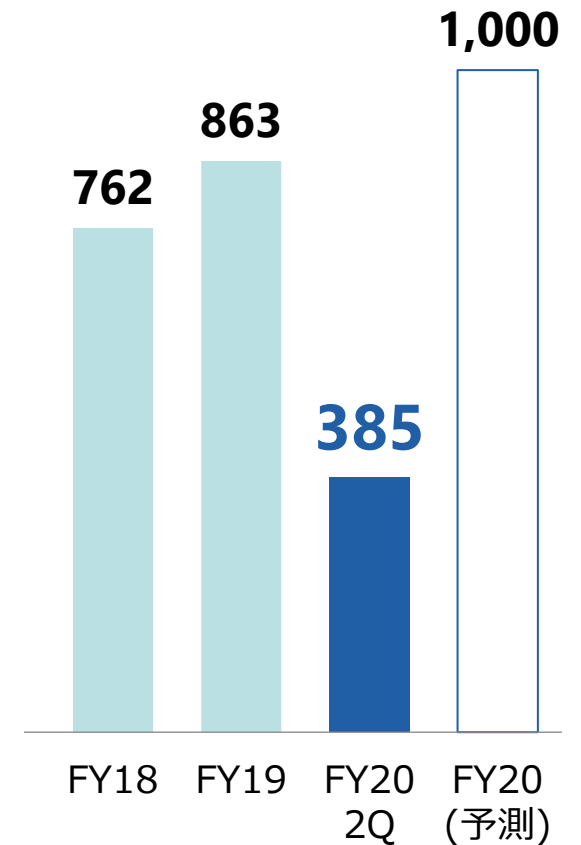
設備投資費



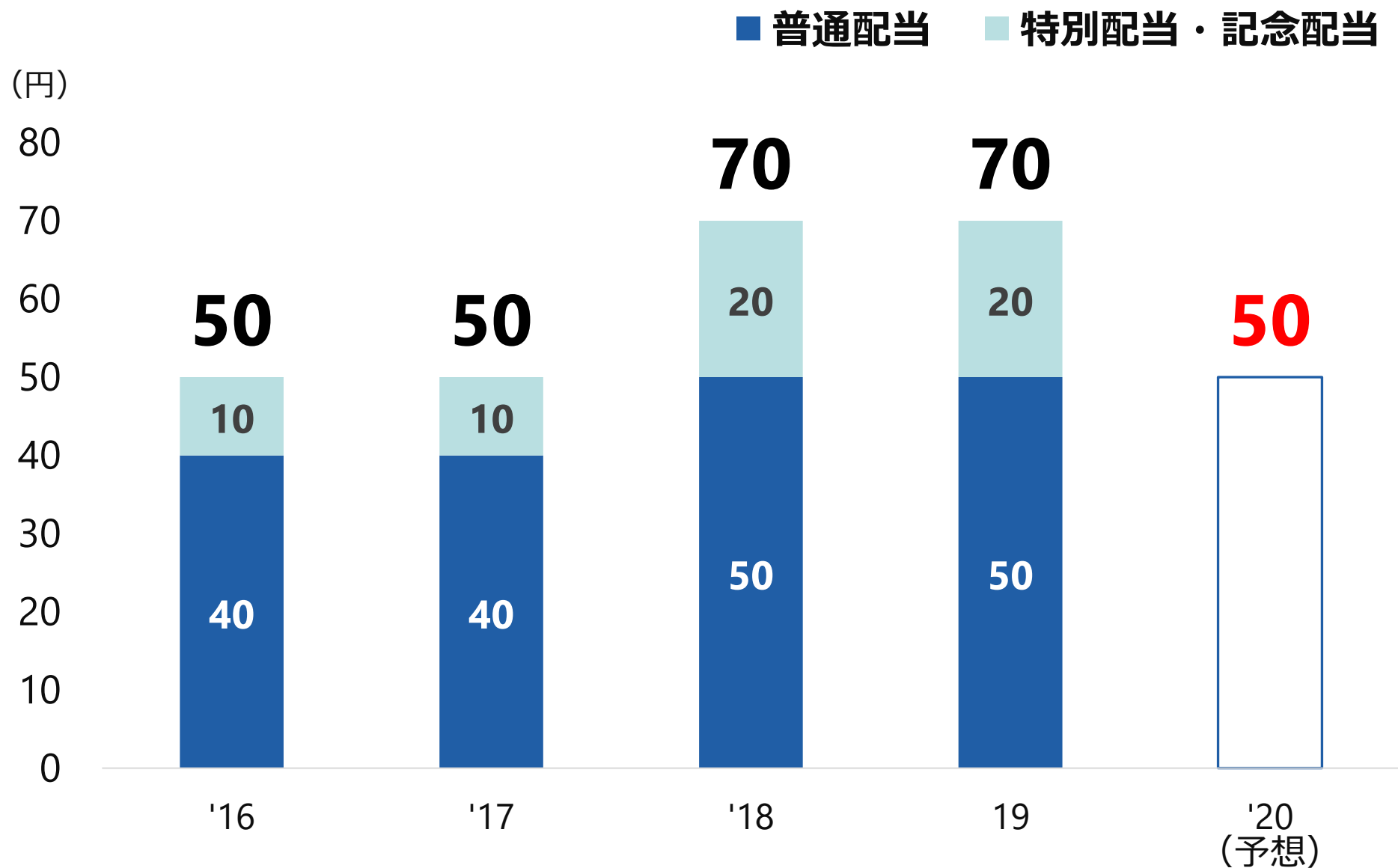
減価償却費



研究開発費

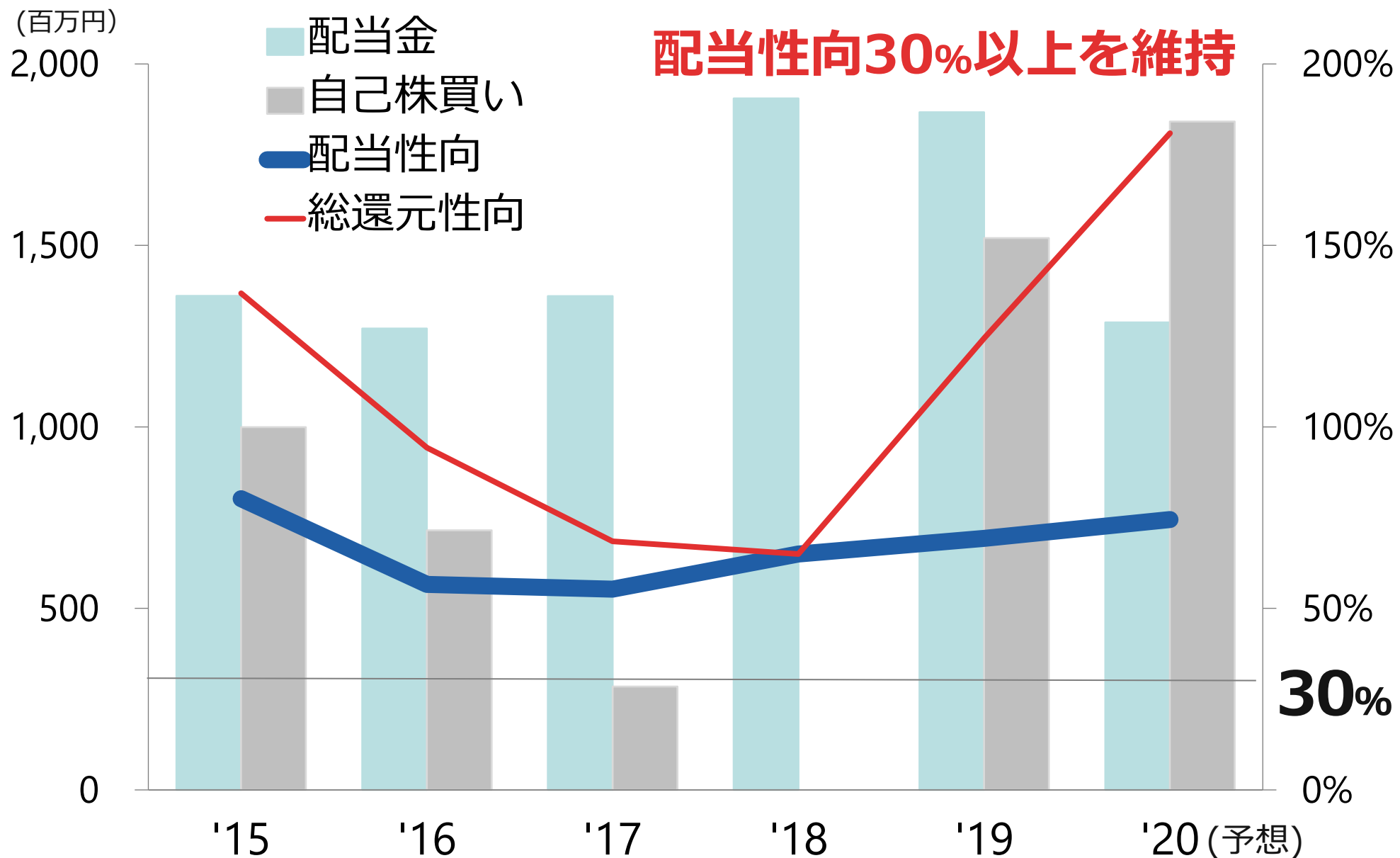


単位：百万円	FY2019実績	FY2020見通	前期比	
			増減額	増減率
売上高	18,575	15,000	△3,575	△19.2 %
営業利益	3,169	1,700	△1,469	△46.4 %
経常利益	3,570	2,100	△1,470	△41.2 %
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,722	1,730	△992	△36.4 %
USD	109.33円 (実績平均値)	106.00		



※当社は従来から年1回期末配当のみ

株主還元 配当性向



今後もご支援のほど、よろしくお願い致します。